

②哲学対話「バランス」(後半より)

E: あの、諸刃の刃というか。うちは子供二人とも、ゲーム系が好きなんですよね。ゲーム。で、娘でいったら、いま、もうここ何年か、百円を入れて、機械で遊んで、終わったらカードが落ちてくるタイプののがすごく好きで。もう、また、その会社のほうもね、長く続けられるようにストーリー性にして、第何章なんかの国とかね。そんなのを、まちょっとね萌え系もちょっと入ったりするから、上手につくってあるので長くしてるんですけど。ま、本人が好きで、お小遣いでやってるんだから認めたい半分、やっぱり、ちょっとこう、やりすぎでつぎ込みすぎる部分もあって。またその、やってる何分かが、世界にすごく入り込むから、もうなんかも、恥ずかしいぐらいもう、やったー！とかね、いけー！とか言いながらやってるから、お上品にお願いしますっていつも言ってるんですけど、ふふふ。

一同：笑

E: でも、全然、親がいなかったら、もう全然で。もう叩くときは、バババババーって叩いて、そんな感じなんですけど。こないだ、えっと、夏、ちょっとね原因よくわからないんですけど微熱がずーっと続いてて。で、6、7度2、3分から、7度6分ぐらいで、微熱っていうにはちょっと高いことも多くてね。で、本人もなんかこう、いままでなかったからすごいドキドキして。心臓動いてるお母さんとかって、何回か言って。動いてるよー動いてるよーとか言いながら。で、結局、その作業所、一週間ぐらい休んだんですね。で、一週間ぐらい休んだ辺、あ、一週、5日くらい休んだところで、やっぱ本人もちょっとこう、うんざりで。そうよね、気持ちいいよね、とか言うときもあるし、でも、ああお母さんなんかおかしい寝れない、とかって言うときもあって、すごい波があって。で、私ももう、あの、励ましたり、ちょっとこう突き放して、だからねって、たくさん寝ないとダメでしょって話をしてたりしてたんですよ。したら、あの、そのカードゲームっていうのが、ま、ふつうに行って、あの、できるんですけど、その会社のほうも考えて、結局その、特別バトル期間とかっていうのをつくるんで、結局そういうのをパソコンでね、まあ、暇だったし、見てんのもあるんですけど。お母さん金曜日から何とかのタイトルが始まるの、行かなくっちゃ、って言うから、あのねって、休んでるときにそんなの行くのはおかしいでしょって、病気をしてるんだから休まなくっちゃって、病気のうちは行けないわよって言ったら、私は治すわって言って、ふふふ。

一同：笑

E: ものすごい熱あるしと思って。ま、病院とか行ってね漢方薬とか飲ませてたんですけど。だから、結局は、えっと7度は切れなかったんですけど、ま、薬も効いて、7度、ま、1分

2分ぐらいにはなったのでね。ま、私ももう、お互いいい加減に1週間も休んでたから嫌だったので、もういいやと思って。ただ、頭が痛かったり気分が悪かったら、熱がなくても帰っておいでって。でも、まあ、あの、気分が良いんだったら、行ってみたらって、言って。でも、うーんうーん、って言ってたら、そのパソコン見た瞬間に金曜日に行かなくっちゃ、って言って、木曜日から行くようになって。だから結局作業所の帰りにね、あの、まあ寄って、遊んで帰ってきてるんですけど。ま、それで、がやっぱりその、なんていうかな、意欲、意欲、意欲という、親の励ましよりも、その、ね、ふふ、パソコンのお知らせのほうが勝ったんですけど、ふふ。もうすごくね、腹が立ったけど、でも、なんか、大きなやっぱ本人の転機で。それからは、やっぱりなんかこう、ま、そういうのもね、特別期間っていうのがだいたい10日くらいあるんですよ。だから、もう、こう、こっちはちょっと半分イラッときてるんだけど、でも、こう、今回ばかりはいいきっかけだったんでね。だから、それっていうのは、そういう場を想定せずに、もともと本人が好きだと思ってやってたことなのでね。だから、本っ当は私はもうなんかやめて欲しいんですけど、でも、もうそれは、もう、止められない、ね、もう年齢もそうだし、いい気になってるのでね。だからやっぱりその、ま、あの基本は本人がやりたいっていうものはさせていたら、やっぱりそういういいこともたまにあるのかな、と、今回は思ったんですけど。ただやっぱり、意欲を引き出すっていうのは、その、ま、あの、こう、場を想定するのではなくって、日頃のなんかこう、なんていうのか、本人の引き出してっていうところが、影響して、ま、そういう困ったときも、ま、ときにはいいことがあるのかなっていうのは、すごくこう、この夏とかね、実感したので。だからやっぱり、本人にとっての楽しみ、本人がこれだったら動くっていうものを、まあ、親がある程度ちょっとこう、把握してたら、きっかけにはねなると思うんですよ。それが全部いかどうかは別なんですけどね。なんかきっかけで、動いてくれるものを、ま、日頃の生活のなかで、ちょっと探しといたらこっちも楽だし。うーん、だからそういうのっていうのは、やっぱりちょっとこう、はたらきかけたり、見せてみたり、連れて行ったりっていうのは、あるから、やっぱり、もちろん、その、休憩しないといけない、じっとしとく期間は絶対必要なんだけど、でも、やっぱり、どっちかというと、最初の話みたい、前に向いて動きながら、こう、えー、タイミングとかをはかるのが、やっぱいいのかなと思って話聞いてたんですけど。はい。

青木：うーん。まあ、いま、の場合だと、要は、体がバランスを崩したんですよ。病気になって。

E：そうです、そうですね、うんうん。

青木：しかも、わりとこう、はっきり原因がよくわかんない仕方でバランスを崩してて、ああしんどいになって。たぶんそれがだから、動いてたのが止まる系のバランスの崩れ方

ですよね。じっとしてて、どうしようどうしようってなって、よしゲームしたいってなった瞬間に、だから、それ動き出さなきゃいけない話になったんですよね、きっと。

E: そうです、そうです、うん。

青木: 体動かさなきゃいけなくなって、で、だから、しんどいけど、なんとかバランスを戻してやるっていう。だから、それはなんかこう、バランスを、なおすことによって、これがやりたいを、やりに行くためについていう感じですよね。

E: きっかけ、ほんときっかけがね。でも、そのきっかけっていうのは、意図してるんじゃないくて、もともとあったものが効果いいようになったってこと。

青木: そうですね、何か新しいことを始めたいっていうよりは、いままでやってたことで、まあ、ある意味新しいですけど。ね、そういう期間が設定されなければ。今までやってたことをまたやりたいってなるときに、じゃあ、この状態を元に戻さなきゃってなって、ってことですよね。だから、バランスを、なおすこ…バランスを元に戻すこと自体が目的っていうよりは、なんか別のことやりたくって、それやろうと思ったら、病気なんだから寝てなさいっていう状態じゃダメだってなって、じゃあなおさなきゃってなって、じゃあ私なおします、っていう戻し方ですよね。それはなんか、そこはなんかヒントありそうですね。バランスを保つこと自体が目的になるってやっぱおかしいような、気が、しますよね、ちょっと。なんか、それは違うんじゃないかっていう。自転車の、自転車でバランス、乗ってバランス保ってるのは、目的地に行くためであって。自転車に乗ってバランスをとること自体が目的なわけじゃ別にないはずだから。なんか、ね、行き先が、あるでしょ。止まって、こう、ね、じっとしながらもバランス保ってるきときだって、たぶんじっとしてなきゃいけない理由は、どっかあるっていう。それはヒントになりそうですね、意欲っていうことと合わせて考えたときに。やっぱバランス保つって手段なんじゃない、っていう。保ってなんかしたい、っていう…。逆に言うとだから、新しいことをすると、それを、達成するために、何か新しくバランスをとらなきゃいけないことが増えたりするんですかね。まあ、いままで手持ちのもので…たとえば自転車で行ける範囲のところに行くんだったらそれでいいんだけど。ちょっと遠いとこまでってなったら、新しい手段を使って、行けなくなるから、ってなったときに…。でも、それって子供さん小さいときって、たぶんその連続なんでしょうねきっと。手持ちのものだけで、手段だけで全部ができるわけじゃ、ない。ま、でも、別にそれはあれか、障害があるなし関係ないですよね。子供ができたらかもしれない。あんまり。

E: 小さいときってね、言葉悪いですけど、モノで釣ってしまうっていう、っていうところの、すごく、あの、それこそ、(笑)

一同：(笑)

A：脅しと、飴と鞭やな (笑)。

F：今でもやってる、ふふふ、けっこう (笑)。

A：ようやったはるよね、ふふふ、脅しを、ふふふ (笑)。

E：それもね、だからバランスですよ。それもね。あの、ちょっと、ある域を超えると脅しとかになるけど、でも、その、きっかけをつくるっていうことでは、非常に有効な方法で。

F：ダメって、いうのはわかってるんだけど、ついつい使ってしまう (笑)。

A：脅すよなあ (笑)。究極の脅しやんな、連れて帰らへんでって

一同：(笑)

F：置いてくよ、とか、ははは (笑)。

C：1回やったことあるんですよ。そしたらね、歩いて帰ってきてん。

一同：(笑)

A：私も、私もやられた (笑)。私も、もう、怒って一人でビュー帰って、へーって歩いて帰って。

C：歩いて帰ってきてん。もうそれは、もうだんだん親のほうが負けてる。

一同：(笑)

A：これは通用せんって思った、私も (笑)。

青木：そっか、そう、そういうところはあるわけだ、ふふ。ほんとにその場で泣き崩れて帰ってこれなくなるんじゃないかって、ほんまに自力で (笑)。

A：そうそう、もういいやって帰られてしまっせん、えー（笑）。

C：いや、はっともう振り返ってね、もう、もうそろそろね、ついてくるやろな思て迎えに行ったらいなくて。こっちのほうか追いかめられて、どうしようと思て。んでしてたら、しばらくしてたら電話かかってきて、一人帰ってきてるけど何しとんねん、言われて。

一同：（笑）

C：んで、へーとか思て、いやいつの間に道覚えたんやろとかね、変に思えたりして（笑）。

A：私もやられたあの人に、あるわ（笑）。

青木：想像を越えられてしまうんですね、そういうときは。そういう意味では、人が何でどうやってバランスとってるかなんてわかったもんじゃないから、はは（笑）。そうですね。置いてかれるっていうのは、その人にとっては一応、想定はしてないかもしれんけど、対応はできる範囲だっていう（笑）。

C：たぶん、さっきおっしゃってた、やっぱりそれも、あの、その子の年代があったと思うんですよ。その、言った年代がね、あつて。もう、親、親にいつもあない言われてるから、もう、今度なんかあったら一人で帰ったる、と思てたときに、親がもう知らんよ！つて言うて、言ったから、ほんだらいいよ、つて思ったかもしれないし。それができないときやったら従順についてきたかもしれないしね。その辺がやっぱり、あの、子供の心のなかで、こう、バランスをみてたんかもしれせんよね。

青木：そう、それはある意味で、だから、親が思ってる、子供がこうバランスをとってるはずだ、じゃないとりかたをもうし始めてしまっているつてところかもしれんないですね。想像を越えられちゃうつていうのは。

G：障害のでもね、種類にもね、やっぱりよるから。私、その、小学部に、養護学校の小学部入ったときに、ま、20歳以上の先輩の大変なお子さんたちのお母さんにいっぱい話を聞いてたから、20歳過ぎても全然障害は軽くとか、変わらないよつていうのをとにかく聞かされてたのと、健常のほうかとにかく大変だから、この子たちはずーつと一緒にいるんだから、こんな幸せな親子関係はないと。でも健常の子は、何が何でも逆に自立してもらわないと困るから、健常のほうかもういろんな障害が出てくるから、よつぽど大変だよ、つていうのを二つとも、その、小1のときにもう聞いてたから。ほんとに20歳超えても全然変わらないし。むしろ、なんか年齢的なことで大変なことが増えてきてるから。私も、あの、はじ

めてのおつかいのあの番組みたいに、うちの娘なんか、もし外で一人ぼっちになったら、どんな行動に出るかって、全然想像がつかないので。家に帰ることもできないだろうし、番号もわからないから、たぶん道路飛び出しもあるので。たぶん、まあ、死ぬ前に誰かが、カメラマンさんかなんかが救ってくれると思うんだけど。なんか、その辺のことが全然想像つかないので。まあ、うちの場合は、もうとにかく一心同体でたぶんずっといく、と思うので。ま、極端な話、あの、これも先輩が、もうどっちかが棺桶に入ったときに終わるのよ、て言われたから。ああ、まあ、そうだろうなあ、ってずっといまでも見てて。最近ほんとひどいから、これはもう悪いけども一心同体でいって、まあ、私が外で、あの、上から鉄板が落っこってきて、ずっと死んでも、この人もたぶん次に死ぬな、みたいな感覚でいってるので。あんまりなんかこう、自転車に乗るとかいうよりも、自転車自体をこの人はたぶん拒否するだろうなあ、という感じがね、すごくあって。よくわからないんですよ、そのへんがね。だから、そういうだから、たまに、あの、稲原先生とかもメールで、ちょっと G さんのお子さんのようなタイプは今まで知り合いにいなかったもので、それは、あの、産経新聞の記者さんも、今までそういう最重度のどっちかっていうと、えっていう、そんな人がみたいな人とお付き合いがなかったもので、イメージがわかりませんでしたって、やたら質問がくるんですけど。ほんとの究極の、たぶん、何もわかってないなんつったら本人も怒るかもしれないけど、たぶんわかってないだろうなあということがいっぱいあって。で、できた、と思ったら、あ、やっぱできてなかったんだ、とか。逆に、えっ、こんなことできるんじゃないと思ったら、あ、あれは偶然だったのかな、みたいなのもしょっちゅうだし。全部をいってみ、とも言えないし。かと言って、用意してみても、乗ったりして、なんてこともないとも言えないし。わからないんですよ。だから、なんか一つ趣味があったら、どんなにこの人の人生は楽しいだろうかと。でも、趣味が見つからないんですよ。